

ヌマガヤツリ *Cyperus glomeratus* L.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 11。低湿地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

1年生草本。茎は太く、単生または少数束生し、高さ 40~90cm、下部は濃褐色の葉鞘に包まれる。葉身は線形、幅 3~7mm である。花期は 9~10 月、花序の枝は長さ 3~10cm であるが、小型の個体では出ないこともあり、苞は 3~4 個で葉状、花序よりも長い。小穂は密集して長卵形で長さ 3~4cm の花穂をつくり、その花穂が花序の枝の先端に 3~5 個つく。小穂は線形、長さ 5~10mm、茶褐色、扁平、10~20 個の花からなり、鱗片は長楕円形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 54019, 1994-9-23)、13 豊川 (小林 76414, 2002-10-6)、14 蒲郡 (小林 80333, 2003-10-11)。尾：37b 尾張旭 (村松正雄 16788, 1996-10-10)。木曾三川下流部にもありそうだが、現在のところ確認できない。

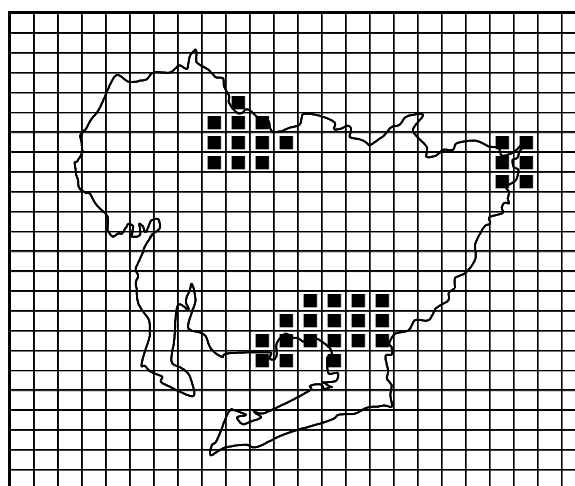
【国内の分布】

本州に生育する。関東地方利根川水系の河川敷には比較的多いが、他ではあまり見られない。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール、インド、ヨーロッパに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

河川敷や池沼の周辺などの低湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

富山では、佐久間湖に堆積した土砂でできた低湿地状の場所に小群落があった。豊川は砕石場調整池、蒲郡は埋立地に生育していたという (小林 2004)。尾張旭では休耕田に 1 株生育していただけで、その場所は現在では耕作が再開されており、周辺の他の場所でも確認できない。

【保全上の留意点】

愛知県では完全に定着しているとは言い難い植物で、既知の生育地はいずれも二次的に形成された場所である。生育地の個別的な保全は難しく、また無理に保全してもそこで長期的に存続するという保証はない。このような植物の場合は、発見したらなるべく完全な標本を作成し、分布情報の蓄積を図るべきである。その一方で、低湿地的な環境を全体として保全し、本種が安定して生育できるような場所を確保することも重要である。

【特記事項】

1年生であるが大型のカヤツリグサで、茶褐色の密な花穂が特徴である。今後他の場所でも生育が確認される可能性がある。

【引用文献】

小林元男. 2004. 宝飯の植物 p.67, 200. 東三河農林水産事務所, 豊橋.

【関連文献】

保草本Ⅲp.245, 平草本Ⅰp.183, 平新版Ⅰp.341.